

ともにー10年のあゆみ

～そしてこれからも～



特定非営利活動法人
東京自立支援センター

法人理念

「障がい者の自立（自律）支援を行う事で共生社会を実現する」

（基本方針）

障がい者一人ひとりが本当に自立（自律）する為の支援指導をおこなう。

現代社会の障がい者の様々な問題に対し課題解決の取組みをおこなう。

法人全体の人員構成状況

職員総数 75 名

内訳

・総合施設長	1 名	・サービス管理責任者	6 名
・児童発達支援管理責任者	1 名	・職業指導員	14 名
・生活支援員	10 名	・就労支援員	1 名
・目標工賃達成指導員	3 名	・世話人	6 名
・児童指導員	7 名	・その他	15 名
・指導員	6 名	・事務職員	5 名

★有資格者★

・社会福祉士	8 名	・介護福祉士	4 名	・精神保健福祉士	3 名
・保育士	2 名	・歯科衛生士	1 名	・ジョブコーチ（訪問・企業）	7 名
・教員免許取得者	7 名	・相談支援専門員	5 名	・相談支援従事者初任者	10 名
・特別支援学校教員免許取得者	1 名	・ヘルパー 2 級	10 名	・知的障害者移動支援従事者	6 名
・義肢装具士	1 名	・心理相談員	1 名	・福祉用具相談員	1 名
・障害者職業生活相談員	5 名	・二級ボイラー士	1 名	・行動援護従事者	1 名
・クリーニング師	2 名	・医療事務管理士	1 名	・Accese ビジネスデータベース	1 名
・介護初任者研修	6 名	・英検	5 名	・キャリアコンサルタント	2 名
・防災管理者	6 名	・簿記 2 級	4 名	・上級救命技能認定証	2 名
・認定心理士	1 名	・食品衛生責任者	2 名		
・認定心理カウンセラー	1 名	・衛生管理者	2 名		

創立 10 周年を迎えて



理事長 高 森 知

東京自立支援センターは、2020（令和 2）年 12 月 16 日に創立 10 周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに、全ての関係者、並びにこれまで当法人に携わられてきた役員・職員など、皆様の暖かいご支援のおかげと心より感謝しております。

この節目の年を迎えるにあたり、記録は将来に向けての大切な資料になり得るとの思いから『ともにー 10 年のあゆみ ～そしてこれからも～』と題して本冊子に取りまとめました。

障害福祉サービスの事業所を始めたきっかけは、民間企業で長年に亘り障害者雇用に携わり、彼らの能力を更に引き出すことは出来ないかと考えるようになった為です。その結果、2011（平成 23）年 2 月に就労継続支援 A 型「ともにー」を開設しました。当初は、利用者 5 名・職員 4 名の 1 事業所から始まりましたが、10 年経った現在では、8 つの事業（就労継続支援 A 型・就労継続支援 B 型・就労移行支援・就労定着支援・共同生活援助・放課後等デイサービス・指定特定相談支援・短期入所）の認可を受けて 13 の事業所を運営し、利用者 118 名・職員 75 名の法人組織となり、充実した福祉サービスの提供体制が整うまでに成長することが出来ました。

この 10 年間を振り返りますと、設立当初は、民間企業出身者が開設した障害福祉サービスに、福祉関係の方々より疑問を投げかけられたこともありました。また、障害者自立支援法（旧法）の細かなルールが分からず、行政担当者のもとへ数えきれないほど訪問し、大変お世話になりました。

当法人の殆どの事業所に「ともにー」の名称がついており、その由来は、「ともに働き、ともに学び、ともに成長していきたい」という思いから名付けられました。名前を憶えていただく為、多摩方面の特別支援学校を訪問し、進路指導の先生方に法人の取り組みを説明して回りました。お陰様で今では、東京都・国立市・特別支援学校など、各方面に「ともにー」という名を憶えて頂き、厚い信頼を得るまでになりました。

これからも私たちは、法人理念である「障がい者の自立（自律）支援を行う事で共生社会を実現する」を使命として、職員一同、更なる成長・発展の為に取り組み、最良の支援指導のご提供をしてまいります。

今後とも皆様方にはお力添え頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

祝・10周年



副理事長 中 川 昭 一

東京自立支援センターの創立10周年を皆さんとともに喜び合いたいと思います。

高森理事長の強いリーダーシップのもと障がいを持った人たちが自立し安定した生活が出来るように支援することで社会貢献に取り組まれた結果、現在では就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援、共同生活援助など幅広い分野まで活動の範囲を広げるまでに至りました。これまでの利用者、職員の皆様のご努力に深く感謝するとともに心から敬意を表します。

私は縁あって主に企業経験者としての立場から気付いたことや経験を皆様にお伝えすることを通じて、活動に関わらせて頂いてきました。いささかでもお役に立つことが出来ていれば嬉しく思います。

この10年を振り返ってみますと、法人の理念である「障がい者の自立（自律）支援を行う事で共生社会を実現する」ことに夢中で邁進してきた10年であり、走り続けてきた10年であったともいえます。

これまでの当法人の活動に対して関係の皆さんからは高く評価して頂いていると考えていますが、現在は新型コロナ感染の拡大で法人を取り巻く環境は極めて厳しくなっており、ただし、このような状況下であっても職員が一丸となってこの危機を乗り越え、法人の理念の達成に向けて頑張り続けるのが私たちの目指すところだと考えています。当然のことながらまだまだ法人としての課題も残されていますので、これからも引き続き活動の内容をさらに充実し、レベルアップを図る必要があります。その為には全ての利用者、職員が成長していくとともに協力し合っていく必要があると考えています。一人ひとりが更に成長することによって東京自立支援センター全体が発展して行くように頑張っていきます。

出会いから 10 年を振り返って ～本物の支援員、専門家集団への期待～



理事 古 山 恵 治

高森理事長と出会って早いもので 10 年になります。

初めての高森理事長との出会いは、私の勤務する障害者支援施設「社会福祉法人 同愛会 日の出福祉園」へ訪ねてこられた時でした。国立市で社会福祉事業を担う特定非営利活動法人として、東京自立支援センターを運営し始めた頃だと思います。高森理事長は、ご自身の法人に対するビジョンを熱く語っていたことが印象的でした。その当時は法人顧問として、都庁などと一緒にいたり、新任職員の研修を担うなどの関わりを持たせて頂きました。

当時は、「何が出来るかわからないですが、私で良ければ応援します」という気持ちからの始まりでした。私自身は長くこの障害者福祉の仕事をさせて頂いて、この業界に貢献するというのが目標の一つでしたので、理事として自分の持てるものは全て提供してきました。

私としては、未来に向けて生き難さを抱える人々が地域の中で暮らしていける様な社会を目指した包括型の法人となっていくことを切に願っています。その為、研修を通じて職員が専門性の高い支援員となる為の育成を担うことが理事としての私の命題と考えています。専門家として高い支援力をもって地域の期待に応えている法人の姿を想像しています。

次の10年に期待すること



国立市健康福祉部
しょうがいしゃ支援課
課長 関 知 介

特定非営利活動法人 東京自立支援センターが創立10周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

国立市はまちづくりの基本理念に「人間を大切にする」を掲げ、誰もがあたりまえに暮らせるまちを目指して施策を行っています。

貴法人は、国立市内でしょうがいの就労支援や相談支援を続けてこられ、多くのしょうがい当事者の地域での自立生活を実現する貴重な存在となっております。

これからの10年も地域支援の事業所として、しょうがい当事者の方に寄り添った支援を続けていただけることを期待しております。

市もしょうがいしゃ支援の為に施策を充実するよう、努力を重ねてまいります。

貴法人のなお一層の発展とご活躍をご祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



沿革

2010（平成 22）年 12 月	法人設立 国立市泉
2011（平成 23）年 02 月	就労継続支援A型ともに一開設（定員 10 名）国立市泉
2012（平成 24）年 04 月	ともに一定員変更（定員 20 名）
05 月	ともに一立川作業所（メンバー 5 名）施設外就労開始 立川市羽衣町
2013（平成 25）年 05 月	ともに一多機能型事業所に変更（就労継続支援A型、就労継続支援B型）（定員 40 名）
12 月	就労継続支援A型ステップアップとともに一開設（定員 20 名）国立市泉
2014（平成 26）年 04 月	ともに一単独事業所に変更（定員 20 名）
04 月	ともに一ドリーム多機能型事業所（就労継続支援B型・就労移行支援）・（定員 20 名）開設
2015（平成 27）年 10 月	共同生活援助・グループホームとともに一ホームユニット 1 開設（定員 7 名）国立市泉
2016（平成 28）年 10 月	ともに一ホームユニット 2 開設（定員 4 名）グループホームと同敷地内
10 月	放課後等デイサービススマイルとともに一開設（定員 10 名）グループホームと同敷地内
2017（平成 29）年 10 月	指定特定相談支援事業所とともに一サポート開設 グループホーム内
2018（平成 30）年 04 月	就労移行支援事業所ポートビズ開設（定員 20 名）国立駅前事業所 矢川事業所
04 月	ともに一ドリーム単独事業所として開設（定員 20 名）国立市富士見台
08 月	ステップアップとともに一立ち退きの為、一時休止
10 月	就労定着支援事業ポートビズ開設 ポートビズ国立事業所内
2019（平成 31）年 04 月	ともに一多摩作業所（メンバー 7 人）施設外就労開始 多摩市和田
10 月	ステップアップとともに一矢川駅前で再開（定員 20 名）国立市富士見台
11 月	東京自立支援センター本部を矢川駅前に移転 国立市富士見台
2020（令和 02）年 04 月	山一商事株式会社横浜（メンバー 8 名）施設外就労開始 横浜市都筑区池辺町
09 月	ともに一ホームユニット 3 開設（定員 6 名）グループホーム隣地 国立市泉
12 月	放課後等デイサービス スマイルとともに一 2 開設（定員 10 名）グループホーム隣地 国立市泉
2021（令和 03）年 01 月	東京自立支援センターとともに一パン工房開設（メンバー 5 名）国立市富士見台
02 月	短期入所事業とともに一ルポ開設

助成金、補助金取得年表

2011(平成23)年

- 11月 公益財団法人日本財団 福祉車両助成金(送迎バス購入)



送迎バス

2012(平成24)年

- 02月 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 第1種
作業施設等助成金(包装機及び計数機)
- 06月 公益財団法人洲崎福祉財団助成金(ボイラー設備)
- 06月 独立行政法人福祉医療機構WAM 社会福祉事業補
助金
(障がい者の一般就労に向けた就労支援事業)
- 07月 東京都共同募金会 A配分(福祉車両購入)
- 11月 公益財団法人ヤマト福祉財団 障がい者福祉助成金(タオル
包装機)
- 11月 社会福祉法人木下財団助成金(包装場ライン及びシューター
設置工事)



福祉車両



包装及び計数機



タオル包装機

2013(平成25)年

- 07月 東京都共同募金会 A配分(厨房機器一式)
- 12月 東京都 障害者自立支援基盤整備事業補助金
(コンベア式容器自動洗浄機及びおしぼり包装機)



厨房機器類

2015(平成27)年

- 04月 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団助成金(軽車両
購入)
- 07月 東京都共同募金会 A配分(包装機及び計数機)
- 08月 日本郵政株式会社 年賀寄付金配分金(大型丁合機)
- 08月 東京都 受注促進・工賃向上設備費補助事業補助金(粉碎
機及び厨房機器)



軽車両



キャラバン

2016(平成28)年

- 03月 公益財団法人日本財団福祉車両助成金(キャラバ
ン購入)
- 11月 社会福祉法人木下財団助成金(大判プリンター)
- 12月 東京都 受注促進・工賃向上設備整備費補助事業
補助金
(複合プリンター及び計数機購入)



2tトラック



大型洗濯機

2017(平成29)年

- 12月 東京都 受注促進・工賃向上設備整備費補助事業補助金
(大型印刷機及びプリンター購入)
- 12月 公益財団法人日本財団福祉車両助成金(2tトラック購入)

2018(平成30)年

- 03月 東京都共同募金会 A配分(大型洗濯機購入)

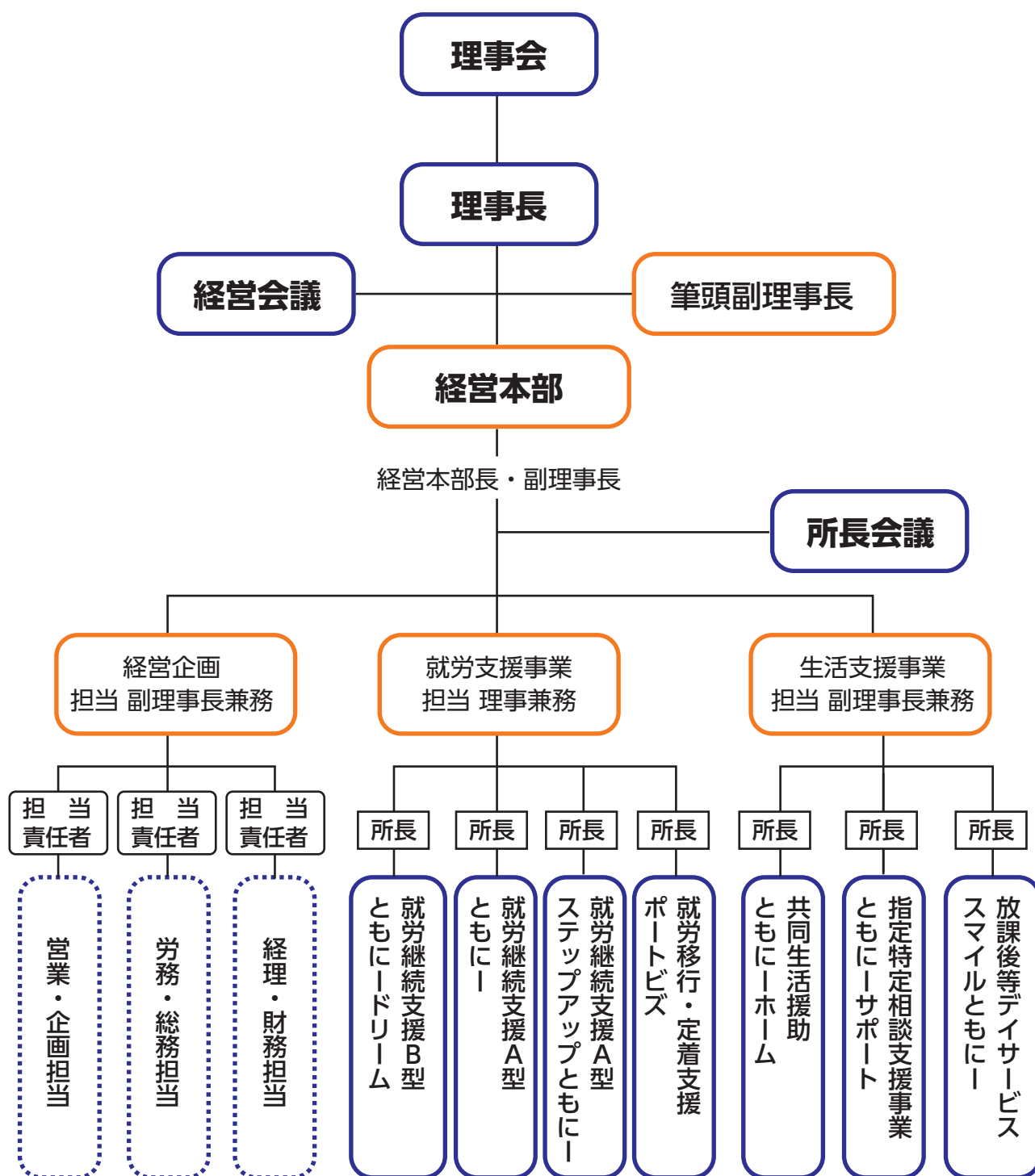
2020(令和02)年

- 10月 公益財団法人日本財団助成金(パン製造機器購入費用助成
決定)



パン製造機

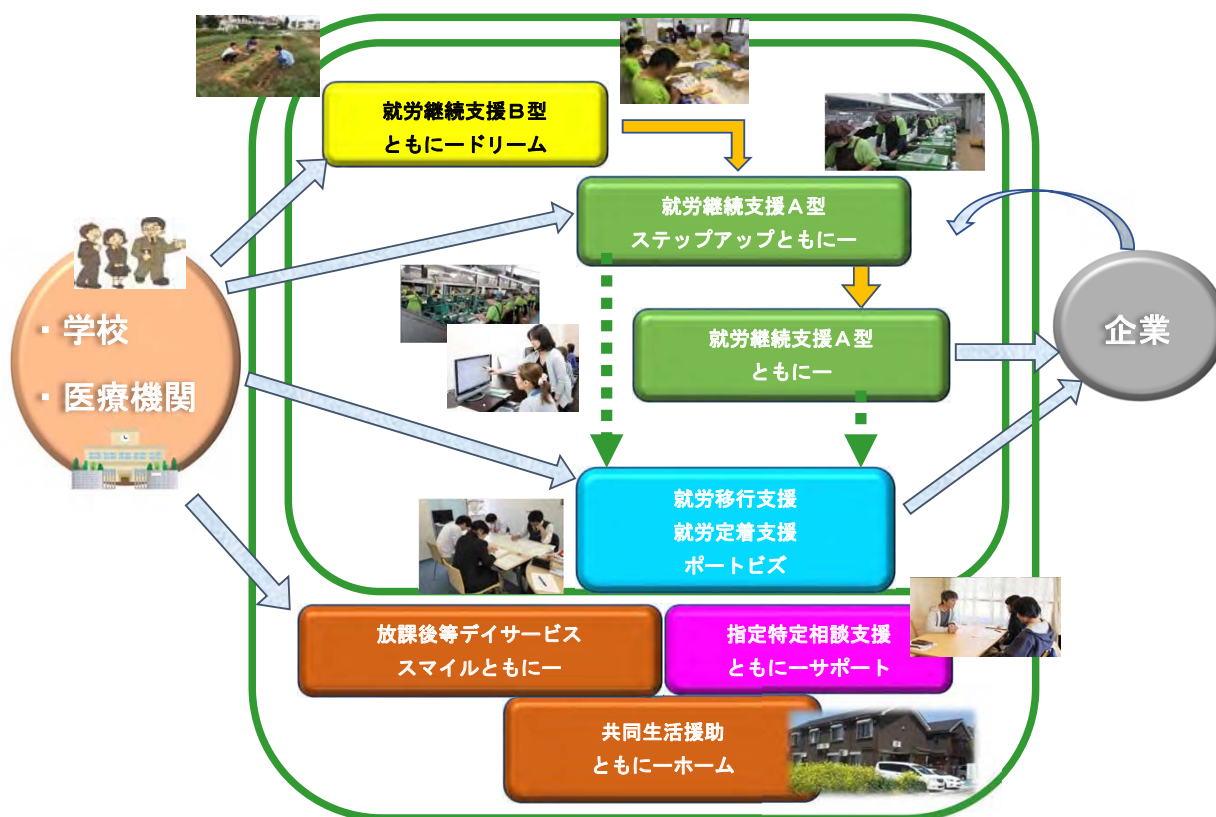
特定非営利活動法人東京自立支援センター 組織図



東京自立支援センターは、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援、就労定着支援、共同生活援助、放課後等デイサービス、指定特定相談支援が共存している法人です。

一般就労をめざす流れは、就労系事業所のA型、B型、移行支援、定着支援が有機的に連携し、B型メンバーがA型にステップアップする事を目標に頑張ったり、就労をめざすメンバーが就労移行支援へ異動し職業訓練を行い、一般就労して行きます。就職後は手厚い定着支援を3年間にわたり受けること等が可能となっています。また、メンバーが何を必要としているのか、どんな支援が必要なのか等を相談し、利用計画書を作成する相談事業も行っています。もう一つの事業所は生活の場としてのグループホームがあり、生活支援を行いながら自立を援助する環境を提供しています。また、放課後等デイサービスでは、就学期の児童への療育を行っています。

この様に、法人全体が必要に応じて家族とも連携しながら就労や生活面での相談に応じ、メンバーの働く力を総合的にサポートしています。



役員一覧

理 事 長	高 森	知
副 理 事 長	中 川 昭	一
副 理 事 長	渡 邊 吉	郎
副 理 事 長	湯 田 正	樹
理 事	高 森 千	穂
理 事	東 一	良
理 事	杉 田 喜	重
理 事	沓 澤 智	喜
理 事	古 山 恵	治
理 事	佐 伯	浩
監 事	鈴 木 恵	美

10 年間の物語

私たちが築きあげたもの

ひとりきりじゃ何もできないから
みんなこうして集まった
きみには大きな力があるさ
ぼくにも力がわいてくる
だから勇気をだして
ともに幸せをさがして
そして元気をだして
おなじ仲間じゃないか

佐久間 真美



2011（平成23）年

ともに一の出来事

- ・2月 おしぼり生産を受託、訓練作業開始
- ・2月 少人数で作業開始
- ・BBQ 昭和記念公園
- ・岡山自立支援センターいもの会参加
- ・忘年会 お好み焼き屋



ともに一事業所



おしぼり生産工場（FSX 株式会社）



包装場で作業開始



お好み焼き屋で忘年会



昭和記念公園でバーベキュー



休日に高尾山登頂



岡山自立支援センターに手伝いに

社会の出来事

- 東日本大震災発生
- 九州北部豪雨
- 九州新幹線全線開通
- 東京電力が計画停電実施
- アナログ放送完全終了

2012 (平成 24) 年

ともに一の出来事

- ・ テーブルマナーセミナー 立川パレスホテル
- ・ 研修旅行 サファリパークと洋らんパーク
宿泊先 伊豆堂ヶ島のホテル
- ・ お花見 事業所となりの公園
- ・ ボーリング大会 立川スターレーン
- ・ BBQ 昭和記念公園
- ・ 手話講習会開始
- ・ 忘年会 カラオケルーム



テーブルマナーセミナー



旅行でサファリパーク



ボーリング



ともに一バスでの送迎開始



伊豆洋らんパーク



旅行のお昼はバイキング



宴会



宴会前のひと遊び



海岸にて



カラオケ付で忘年会



手話講習会「協力します」



お花見

社会の出来事

- 第 46 回衆院選で自公圧勝、政権奪還
- LINE 人気爆発
- 東京スカイツリー開業
- 山中伸弥教授ノーベル賞受賞
- ロンドン夏季五輪

2013（平成25）年

ともに一の出来事

- ・テーブルマナーセミナー 昨年と同じ立川パレスホテル
- ・研修旅行 水族館、宿泊先 伊豆堂ヶ島のホテル
- ・お花見 事業所となりの公園
- ・ボーリング大会 立川スターレーン
- ・立川よいと祭り かき氷販売で参加
- ・手話講習会
- ・フィットネス開始 事業所となりの公園
- ・対人マナーセミナー開始
- ・歯科講習会開始
- ・忘年会は中止



よいと祭り参加 かき氷



手話講習会 名前の「中」の字の練習



本社包装場での作業開始



カゴ洗い作業



箱詰め作業



対人マナーセミナーで役を演じる



旅行の昼食「いただきます!!」



宴会



みんなで公園でフィットネス



焼き場担当!!



スポーツ祭東京 2013 マスコットキャラクター「ゆりーと」の手ぬぐい納品前作業



バーベキュー後、原っぱでフリータイム

社会の出来事

- アベノミクス始動
- 2020 年夏季五輪、東京開催決定
- 200 系新幹線、最後の定期運行
- 富士山、世界遺産登録決定
- ご当地キャラ総選挙「ふなっしー」優勝



歯科講習会

2014 (平成 26) 年

ともに一の出来事

- ・テーブルマナーセミナー 昨年と同じ立川パレスホテル
- ・研修旅行 日光江戸村・日光東照宮
宿泊は日光のホテル
- ・お花見 事業所となりの公園
- ・ボーリング大会 立川スターレーン
- ・手話講習会
- ・フィットネス 事業所となりの公園
- ・対人マナーセミナー
- ・手話講習会
- ・忘年会 中止
- ・東日本大震災の復興支援で宮城へ



食事のマナーを勉強



テーブルマナーセミナー 集合写真



対人マナー 積極的に回答



研修旅行
社会福祉法人こころみる会
こころみ学園にて原木運び体験



旅行先のホテルで集合写真



日光江戸村でにゃんまげと…



お花見 みんなでカレー



食育セミナーで食材の勉強中



日光東照宮で集合写真



岡山自立支援センターで芋ほり



収穫した芋を焼き芋にして復興支援

社会の出来事

解釈改憲で集団的自衛権容認
御嶽山噴火
広島で大規模土砂災害
日本人 3 名にノーベル物理学賞
STAP 細胞論文問題

2015 (平成 27) 年

ともに一の出来事

- ・研修旅行 山梨県立科学館・拮梗屋・富士サファリーパーク
宿泊先 ホテルふじ
- ・BBQ ホーム2 建築前の空地にて
- ・ボーリング大会 立川スターレーンにて



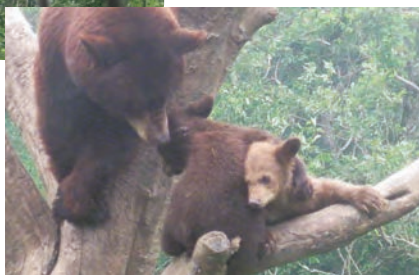
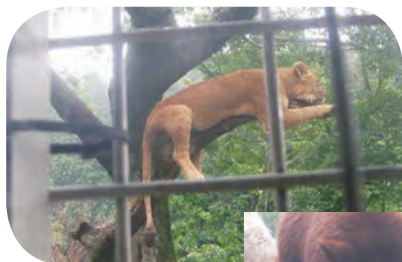
美味しいね！



BBQ最高です



BBQ はともに一ホーム2建設前の敷地内にて



立川スターレーンにて大ボーリング大会



富士サファリーパーク

社会の出来事

- 安全保障関連法が成立
- 世界各地でイスラム過激派のテロ
- 北陸新幹線が開業
- ラグビー W 杯で日本が南アフリカに勝利
- マイナンバー通知カード配達開始

2016（平成28）年

ともに一の出来事

- ・研修旅行 日産自動車追浜工場見学
宿泊先 ホテル三日月 竜宮亭
- ・スマイル 開設当初は5名でスタートしましたが、少ない人数からの開始でゆったりまったりしていました。
- ・ふれあいスポーツ
国立市立第5小学校校庭にて



みんなで宴会



ふれあいスポーツのつどい



パン食い競争は
盛り上がります！

10月からスマイルともに一が始まりました



手前の建物がともに一ホーム本体、
隣の建物1階がスマイルともに一、
2階はともに一ホーム2



ともに一ホームの夕食



研修旅行
日産自動車追浜工場見学



社会の出来事

天皇陛下、退位の意向示唆
熊本地震発生
障害者施設で殺害事件
新元素名に「ニホニウム」
ポケモン GO が国内配信開始

2017 (平成 29) 年

ともに一の出来事

- ・研修旅行 航空科学博物館・日本航空機体整備工場 宿泊先 かんぽの宿 旭
- ・スマイル 利用者が10名となりましたが、皆で良く出かける様になりました。
- ・夏祭り 第1回目は開催場所 ホームとスマイルの敷地と公園入り口にて



スマイルとともに室内にて



かき氷もやりました



利用者の手書きチラシ



第一回目の夏祭り



フランクフルトは大盛況



研修旅行

JAL工場見学



近隣子ども達には、ヨーヨーが大人気でした

社会の出来事

天皇退位、2019年4月末に決定
 九州北部豪雨で死者・行方不明者多数
 日本国内で「ヒアリ」見つかる
 東京都知事に「小池百合子氏」就任
 アメリカ大統領に「ドナルド・トランプ氏」就任

2018 (平成 30) 年

ともに一の出来事

- ・研修旅行 伊香保グリーン牧場・こんにゃくパーク
宿泊先 冬桜の宿 神泉
- ・立川よいと祭り かき氷販売
- ・忘年会 ホテル日航立川にて
- ・スマイル 長期休み中はみんなで色々な所へ出かけました



よいと祭り参加 かき氷



ホテル日航立川で大忘年会



研修旅行
こんにゃくパーク工場見学



みんなで出かけ

社会の出来事

- 平昌冬季五輪開催
- 本所佑氏ノーベル賞受賞
- 「18歳成人」改正民法成立
- 中央省庁で障がい者雇用水増し
- 大坂なおみ全米オープン初優勝

2019（令和元）年

ともに一の出来事

- ・研修旅行 赤城フーズ・原田農園
宿泊先 湯沢ニューオータニ
- ・テーブルマナー 立川のパレスホテルにて
- ・B B Q 城山公園にて
- ・手話講習会 FSX (株)本社工場 会議室にて
- ・対人マナー とともに一事務所
- ・スマイル ハロウィン行事
- ・部活 平成 27 年度から開始したバスケットボールが盛況



テーブルマナーセミナー



流域下水道処理場広場（通称：空中公園）にてバスケットボールの部活動



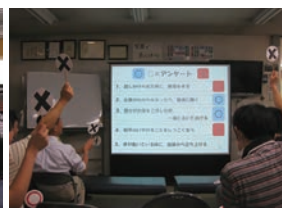
原田農園でイチゴ狩り



B B Q in 城山公園



ハロウィン!!



対人マナーセミナー



外遊び大好き!!



研修旅行 湯沢ニューオータニで大宴会

社会の出来事

天皇陛下即位、「令和」に改元
ラグビー W 杯日本大会開幕
消費税 10% スタート
京都アニメーション放火殺人事件
G20 大阪サミット開催



手話講習会

2020（令和2）年

ともに一の出来事

- ・新規事業として 植木事業、福祉有料運送がスタートしました。
- ・ともに一ホーム3、スマイル2が新設されました。
- ・スマイル 節分、花見、消防訓練のイベント
- ・山一商事㈱横浜で受託が始まりました。
- ・研修旅行は中止



植木作業風景



ともに一ホーム1 南側の敷地



10月竣工、手前の建物
1階：スマイルともに二 2階：ともに一ホーム3



山一商事横浜工場での仕事



植木作業チーム



お花見



消火器を体験しました



鬼は外！福は内！



社会の出来事

新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言
東京五輪、1年延期
菅首相誕生、新内閣発足
政府が布マスク配布
Go To トラベルキャンペーン開始

就労継続支援 A 型事業所 とともに一

所長：高森 千穂

この 10 年間の思い出

2011（平成 23）年 12 月に特定非営利活動法人として東京自立支援センターを設立、翌年 2 月に就労継続支援 A 型とともに一を 5 名の利用者ととともに開所しました。

初めは経験も浅く実績も乏しい中で、職員として仕事を理解する為に様々な作業を体験しました。

事業所をより良くする為に体験を活かし、模索しながらも日々努力を重ね、職員・利用者の方々とともに成長してきました。

受託作業先も年々増えていき作業内容、利用者も今では 28 名となりました。長いようであっという間の 10 年間でした。



事業所（サービス）に対する思い

個々の利用者の障がい特性による生き難さに配慮したうえで、働く場での行動や態度の習得、良好な対人関係、社会性を身に付けられる様な支援をしていきたいと思えます。

とともに一を経て就労移行支援に移動した方や就職などで卒業した方も多くおり、今後も利用者の方々の卒業を支援し、共生社会を実現していきたいと思えます。

次は どんな 10 年にしたいか

一人ひとりのニーズに寄り添い、ご家庭、関係機関との連携を密にし、利用者のワークライフバランスに着目しながら心身の安定を図り、仕事に必要な知識技術を身に付けられる訓練の場を目指していきたいと思えます。





就労継続支援 A 型事業所 ステップアップとものにー

所長：前田 摩耶

この 10 年間の思い出

より多くの利用希望者に対応できる体制を整えるため、主となって見学や実習の受け入れを担当していく新規利用の窓口として、2013（平成 25）年 12 月 1 日に開設しました。

現在はとものにー A 型事業所と同じく定員 20 名の事業所となり、毎年春や秋には特別支援学校の生徒さんの実習を行なっています。この実習では卒業後ステップアップとものにーに入所した先輩の姿を見ることが出来るので、自分のやりたいことや進路について、身近に感じ、考えることが出来ます。また、卒業校の先生方に、作業を通して成長し活躍している様子を見てもらえることで、利用者自身の喜びや達成感になります。

開設当初は未熟だった職員も、日々の支援・指導を通し、皆様から学ばせていただき、利用者とともに歩み成長出来た 10 年であると実感しております。



作業指導



対人マナーセミナー

事業所（サービス）に対する思い

成功体験を積み重ね、自信につなげる支援をしています。雇用契約を結ぶ A 型では生産性を求められる作業を通し、作業技術に加え、コミュニケーション力や言葉遣いなど、自立と自律に向けた専門的な指導の役割を担っていると自負しております。

社会へと飛び立ち活躍する皆様の第一歩となる場として、利用者とともに学び、指導に努めてまいります。

次は どんな 10 年にしたいか

就労とはただ働いて賃金を稼ぐことではなく、人と社会とのつながりであり、社会的な役割があることで人としての成長ができる、人生の一部といえます。そのためには、利用者さん自身が自分で成長していけるような目標を一緒に考え、社会の一員として活躍、貢献していけるような社会生活スキルを習得し、共生社会の実現を目指します。

今後は新たな仕事や作業体験の場が提供出来るよう、新規事業の開拓をすすめながら、対人マナーを身に付ける研修や、社会参加の経験が出来る行事を開催します。そして、様々な経験を通し、「いきがい」や、「やりがい」などの達成感を感じながら成長し続ける、「ステップアップ」の場として、その役割を全うしていきます。



作業後、有志にて部活動



ボーリング交流会

6月頃に開催。ゲームを通して4月に新しく入所した利用者や職員との交流を深めます。一喜一憂、励ましあうことで皆が楽しめるイベントとなっています。



BBQ 交流会

秋頃に開催。働く仲間と協力しながら準備や焼き場など、作業分担について相談してすすめることで、楽しみながら、チームワークを高めます。



テーブルマナー講習会

1月頃に開催。コース料理を食べながらテーブルマナー講習を受けます。当日は正装とし、普段とは少し違った雰囲気集まった人同士の親睦を深め、食や会話を通じてより良い関係性を作ります。



手話講習会

年1〜2回開催。聴覚障害の利用者さんともコミュニケーションがとれるよう、自分の名前やあいさつ、おしぼり品質向上の心得、仕事でよく使う手話を学習します。



避難（防災）訓練

年1回実施。計画に沿って行ない、作業中の震災を想定して、作業場ごとに避難訓練を行います。これまでに消火器の体験等も行ないました。

その他の行事の紹介

お花見、歯科検診、夏祭り、対人マナーセミナー、地域スポーツ大会、忘年会、研修旅行等

就労継続支援 B 型事業所 とともに一ドリーム

所長：伊東 美紀

この 10 年間の思い出

利用者は1名からのスタートでA型と同じ場所でおしぼりの包装作業をしていただいていた。今の事業所に移ってから、初めは広い作業スペースの中の隅で3名4名でこじんまりと仕事をしていました。受注先から仕事をいただけないことも多く、手作り石鹸を作ったり、粘土でマグネットを作ったり、畑でとれたジャガイモでコロッケを作って皆で食べることもありました。

新しく始める仕事が多く、利用者と作り上げてきたという思いが強い。徐々に利用者も増え、仕事の種類も増えていき、広いと感じていた作業場は今では広いと感じることはなくなりました。



事業所(サービス)に対する思い



利用者が安心して通える場所にすることが重要だと考えています。利用者の出来ないことや苦手なことを出来るようにしていくことも大切ですが、出来ること、得意な事をみつけ伸ばしていけるようにしていき、個々のニーズを把握し目標にむけて小さな成功を積み重ね、必要とされている、頼りにされているという自信を身に付け、充実した生活が送れる様な支援を行えるようにしていきたいと思っています。

希望があれば一般就労や就労継続支援A型などに移行することが出来るよう、ともに一ドリームだけではなくどこに行っても利用者が相談や報告が出来、継続して働ける力がつくよう心がけていきます。

利用者の自立とご家族が安心出来る様な取り組みが出来る事業所でありたいと思います。

次は どんな 10 年にしたいか

安心して生活していく為に必要なことを身に付けられるよう、仕事だけでなくレクリエーションを行うことで、より多くの経験を利用者にはしていただきたいと考えています。個々に合った作業を行えることと、工賃が上げられるよう、作業の種類を増やすこと、自主製品づくりをしていきたいと思っています。

利用者とともに職員も成長し、利用者やご家族のニーズに応えられることを目指す10年にします。





就労移行支援事業所 ポートビズ 就労定着支援事業所

所長：伊藤 英治

この 10 年間の思い出

ポートビズは就労継続支援 B 型との多機能型から独立して単独事業所となりました。

事務所探しで何か所か内覧しましたが、中々適切な場所が見つからなかったのですが、漸く国立駅から徒歩 5 分の立地が確保できました。2 月の寒い時期でしたので、震えながらレイアウトを考えたり、事業所名を 50 程の候補から検討した日々は思い出になっています。空港や港から port、仕事から biz をイメージして、造語 portbiz を作成しました。職業訓練場所から仕事場に旅立つイメージとしました。



事業所（サービス）に対する思い

三障害一元化と言いつつも実際には、一つの障害に特化した事業所が多いです。そんな中でもポートビズは現在、精神保健福祉手帳・療育手帳・身体障害者手帳保持者すべての方が利用しています。特性などで苦手意識もあるとは思いますが、仲良くしましょう、とは言いませんがお互いに上手く活動していきましょう。



次は どんな 10 年にしたいか

2006（平成 18）年に法律が制定され、就労移行支援という事業が開始されてから 15 年が経ちます。その間株式会社系の事業所が増加し、社会福祉法人系の事業所の撤退が多くみられます。ポートビズとしては両者の良い所取りをしながら、就職したいと思う障がい者に寄り添いながら就労に結び付けると言う使命を全うしたいと思っています。





職場体験実習面談会



就労定着支援事業所 ポートビズ

平成 30 年 10 月 1 日、厚生労働省が制度を創設した時と同時にポートビズも定着支援事業を開始します。と声を上げました。当初は、ともにードリームから就職した人も含め、就職して半年経っている人が居ませんでした。年明けの 1 月に 1 名の利用者の定着支援から始めました。ポートビズの就労移行支援部門も就労活動を積極的に展開しているため、最高 15 名の定着支援を行うまでになりました。現在は 14 名の利用者の定着支援をしています。会社に訪問し、企業の担当者と情報を共有したり、ポートビズに来てもらって、会社では訴えられない悩みや愚痴を聞いたりしています。会社に勤めるのは勤めているだけでも大変なことで、継続して働いていることを評価したいと思います。社会人の先輩として、何気ないアドバイスでモチベーションを保てれば良いな。と思っています。ガンバレ社会人！

共同生活援助 とともに一ホーム

所長：渡邊 吉郎

この10年間の思い出

開設から今までを振り返ってみると、先ず思い浮かぶのは、職員体制が整わず、いつも勤務シフトと睨めっこをしていたことです。

開設から暫くの間、常勤職員は管理者のみだった為、勤務シフト表の予定通りにいかない日が度々あり、その都度、非常勤の職員の方々に助けて貰っていました。支援についてのちょっとした相談にも多々乗って貰い、安堵していたことを覚えています。「一人の力では続かない」、そんな思いから、一緒に働いて貰える職員がいるからやれると思い、本当に皆さんに感謝をしていました。また、利用者との思い出では、毎年行っている少人数の一泊旅行が挙げられます。皆にとっては、学生時代や就労先の大きな宿泊行事とは異なる家族以外の人達との行き当たりばったりのグループ旅は数少ない経験であると思いますし、同行する側も心底から楽しい思い出です。

現在、24時間365日の支援が可能なグループホームになりました。2021（令和3）年2月にはグループホームに短期入所事業も併設出来る体制になりました。繰り返される日常生活の中では、誰もが予期しない不本意な出来事も起こります。でも、このグループホームにも利用者の生活感、そこで支援する職員の思いを感じられ支援の幅が広がった事、それが開設からこれまでの思い出として一番大きく締めていることです。



事業所（サービス）に対する思い

職員自身やその家族が住んでみても良いなと思える様なグループホームであって貰いたいと心掛けて運営を続けています。入居中の利用者やそのご家族はまだ若く、どこで生活をしたか選べるこの時期にグループホームという社会資源を選択されました。入所施設でなく、自宅でもない共同生活の居場所として、利用者やご家族のニーズに応える支援を大切にしたいと思っています。

次はどんな10年にしたいか

ノーマライゼーションの理念・根拠を求め、地域の中にある普通の建物で、数名の普通の家庭的な生活規模で、一人の地域住民としての普通の暮らしを続けていきます。又、それを前提に、グループホーム従事者の研修で教わった言葉が記憶に残っています。「私たちの仕事は、常に聞くことこそ最大の権利擁護であり、そうした姿勢を持続しなければならない」です。パターン化した支援に陥ることのないグループホーム運営を追い求めていたいと思います。





放課後等デイサービス スマイルとものにー

所長：鈴木 郁美

この10年間の思い出

2016（平成28）年10月設立。

設立から4年のまだまだ若い事業所ですが、地域にも徐々に浸透していき、皆様の口コミのおかげで多くのお問合せをいただき、欠員待ちになるほどの事業所へと成長出来ました。これからも皆様に必要とされる事業所でありたいと思っています。



学校休暇中はみんなでお出かけ



ザリガニ釣りに出発!!

事業所（サービス）に対する思い

ご家庭とも学校とも違った、刺激のあるこの環境は子どもたちの心を育む大切な場であり、社会に出る第一歩の場、基盤作りの場と考えています。地域での適切な療育の場や安心して楽しんで通える居場所は子どもたちにとって大切な場です。

皆様にとって、身近に感じ利用したくなる様な事業所を目指しています。

次はどんな10年にしたいか

2020（令和2）年12月にスマイルとものにー2が出来ました。地域のニーズに答え、スマイルとものにーと同じ環境を提供出来る場を増やしました。

今後も笑顔あふれる明るく楽しい事業所として、地域の皆様に愛され、多くの人が集まる場になるよう精進してまいります。

ご家族含め、皆様が豊かな暮らしが出来るよう、お手伝いをさせていただければと思っています。



退治した鬼と仲良くなりました



指定特定相談支援事業所 とともに一サポート

所長：渡邊 吉郎

2006（平成 18）年 10 月に施行された障害者自立支援法によって、「相談支援専門員」が正式に誕生しました。2012（平成 24）年に制定された障害者総合支援法では、障害福祉サービスを利用する当事者には、担当の相談員がついて「サービス等利用計画」を作成しなければならないということになりました。ですが、実際には相談支援専門員は足りず、計画相談を希望していても事業所が見つからないという状況でした。この場合、当事者又はご家族が市役所にセルフプランを提出して、支給申請をする暫定的な方法を選ぶしかありませんでした。

東京自立支援センターの開設は 2010（平成 22）年、セルフプランによる支給決定を受けて障害福祉サービスの利用を開始された利用者も少なくありませんでした。この様な背景のもと、2017（平成 29）年 10 月に指定特定相談支援事業とともに一サポートは始まりました。

開設当初はグループホーム職員との兼務による、管理者 1 名・相談支援専門員 1 名の職員体制から始め、平成 31 年度には非常勤職員 1 名が加わり、利用契約者も徐々に増やすことが出来、法人利用者以外の地域の方々への支援も始まり、相談支援専門員同士の意見交換が可能な事業所環境になりました。

相談支援専門員の役割は「その人がどういう暮らしを希望するか」「福祉サービス事業所を利用することで、目指す暮らしにどう近づけるか」を当事者やご家族、事業所の方々などと一緒に考え、サービス等利用計画を作成していくことになります。

サービス等利用計画を所轄の市町村に提出し、市町村から支給決定（障害福祉サービス受給者証）が発行されたら障害福祉サービス事業所の利用を始めることが出来るようになります。

相談支援専門員には、幅広い知識と洞察力、判断力やコミュニケーション能力が必要になります。障害福祉サービスの利用者の年齢は幅広く、サービスの種類も、支援対象者も多岐に渡ります。より質の高い支援を利用者に提供する為、国による研修制度が見直されています。障害福祉分野での「経験の深み」と「柔軟な発想力」のバランスを身に付けつつ、経験値だけに頼らない視野の広い支援を提供出来る事業所を目指しています。



次の10年へ向けて

～ 私的な思いから組織的な取り組みへ～

理事長 高 森 知

「福祉サービス」ということばが普通に使われるようになった今日ですが、以前の日本の障害福祉は行政が必要なサービスを決定していました。それが、1975（昭和50）年の「障害者の権利宣言」が転換点となって、自身が受けたいサービスを決めることが出来るようになり、地域生活が当たり前の支援に変わってきました。

社会福祉事業を担う法人として、東京自立支援センターは国立市で10年間運営してきました。この10年間は、利用者ニーズに則する形で、次々と事業展開してきた10年だったと言えます。

では、次の10年は何を目指すべきか？

私たちは、利用者に地域生活に必要なサービスを提供し続ける為には、求められる組織として事業が継続されている必要があると思います。

そこで、法人組織の事業運営を安定させる為には何をすべきなのか考えました。

先ず、実現すべき未来（ミッション）を提示し、将来像（ビジョン）を示し、その上で、実現の為の具体的な行動を示す必要があります。

つまり、全職員が取り組める経営計画が必要だと考えています。当法人は中期経営計画を2019（平成31）年4月に3ヵ年計画として策定しました。この計画は、今後も法人を維持・発展させていく為に「今、私たちは何をすべきなのか？」を明らかにする具体的なツールであり、職員に法人ビジョンを示すことで全体のベクトルを揃えていくツールでもあります。

経営層だけが目標を持っても全ての職員が理解し共通の目標としなければ、組織としてのベクトルが一致せず、目標の達成は難しくなるでしょう。

中期経営計画に取り掛かる際に皆で「テーマ」を共有しました。それは「目指しているのは、福祉の百貨店!!」、「そこには専門の支援者がいて、地域生活の中で困り事がある方々に必要なサービスを提供します」でした。

このテーマを念頭に、利用者やご家族の皆様、関係諸機関の方々のご協力も得て、全職員が「今、私たちは何をすべきなのか？」を考え続けることが、事業継続の為に大切なのではないかと考えています。

恐らく10年後の障害者福祉の施策は大きく変わっていると思います。時代とともに移行行くことと、変えてはいけないことがあります。10年前に私的な思いから始まった法人理念とその基本方針は、これからの10年に組織として引き継がれていくべきことと考えています。

編集後記

コロナ禍で目まぐるしく変わる日々への対応に追われる 2020 年秋、10 周年記念誌を作るという話が立ち上がりました。プロジェクトメンバー、各担当ページの執筆依頼を受けた職員は、多忙な業務の合間に作業を進めなければならず、本当に大変だった事と思います。ですが、おかげで古参者には懐かしく新参者には新しい、「10 年間の物語」を完成させることができました。

温故知新、というには 10 年という年月は短すぎるかもしれませんが、節目の年に過去を俯瞰し、今とこれからについて考える機会を得、それを記念誌という形に残すことが出来たのは、とても意義のあることだと感じています。

果たして、次の 20 周年記念誌はどのようなものになるのでしょうか。
楽しみです。

金山 紀子